

農家代表 住 田 理 市

グループの概況

私のグループは第1表に示す通り水田75アール、畑19アール、計94アールの基礎に立った経営であり、従って落合地区の平均耕作面積に対し138%、利用草地は平均33アール、乳牛頭数は24頭、内搾乳牛15頭を飼育し、鶏は平均25羽、家族の労働人員は平均2.4人となって居ります。

乳牛経営を取入れて

当地区は砂質土で終戦当時迄は米麦のみに依存し収入の90%を占めて居りましたが、多年掠奪農業の為に生産性は低下し、経営の合理化を見出す必要性を痛感しあれこれと考え、同志3名が農協に経営の状態を打明け将来の営農改善について相談を致しました所、生産性の向上と労働配分並に現金収入の増加の為に酪農経営を奨められて、昭和22年12月に大きな希望を抱いて1頭宛の仔牛を導入したのであります。

然し乍らその当時牛と言えれば即ち黒牛であり、近所隣りからは異端視され部落の集会でも何時も変り者として扱われ、末席にすわって用事さえ済ませたら嘲笑の声を聞きながら早々に帰る有様で、特に女達を出席させた時はいたたまれず中座して帰る様でしたが、目的達成の為に障害を乗り越え、苦難を突破してこそ光明は得られるものと歯を喰いしばって頑張り、昭和24年の春仔牛を分娩して搾乳に入りました。

その頃からボツボツ部落内でも乳牛に興味を持ちかけて一人二人と飼育者が増え、現在では酪農家28人で52頭の乳牛を飼育致して居ります。

診断農家と成るまで

その間色々と変遷を経て、昭和30年の不況では痛切に飼料作物の必要性を感じ、経営の合理化に迫られ、農協の指導部からも再三再四改善事項の指示や経営設計のお話を聞きましたが「喉元過ぎれば熱さ忘れる」の諺の通り目に見えた改善も行わず居りました処、昨年4月指導員の森山さんや保健所普及所等からこの診断事業の対象農家として是非吾々にやって見よと奨められ、早速酪農家を集めてこの事を話した処何分にも農家としては過去に記帳の習性に乏しく、果し

てやり得るかどうか疑問でも有り、中には「そねえ面倒な事がどうなるもんか」と一言のもとに否定する者もある様な訳で話しがつかず、再び指導員に相談した処「自分のために自らの力を養う事を敬遠する様では酪農は出来ない。自分を反省し将来の大綱を樹てて之を一つ一つ実行に移すこれ以外に前進は無い、是非この機会に経営改善をやろうでは無いか」と話されて、深く感銘し当初は面倒に想っていた者も進んで診断事業を受けたいと殆んどの農家が希望し、その中吾々10名が対象農家として1ヶ年の計画経営に踏み切ったのであります。

経営改善には

先ず4月30日に診断事業の説明会と同時にグループの結成会を開催して、その席で本年度実施の重点改善事項の指示を受け、第2表に示す通りの実践事項を対象農家一同で強力に申合せ宣言したのであります。

先ず経営規模整備の為、優良産犢の保留並に導入により1戸当り産乳量16,000K-20,000K 達成を期する事、飼料の70%自給の為専用飼料圃の設置、サイロの増設、干草1頭当り1,200K の調製石灰藁の全戸利用、施設の改善では牛舎の改良、特に作業の利便と牛体の健康維持、糞尿の分離施設並に作業効率をはかるためと生活改善の目的の為に水道施設と併せて牛舎の給水設備、並に衛生的な牛乳処理を行う為牛乳処理場の設置、乳牛の保健衛生の見地からする共同放牧管理、次に農業経営の基礎をなす耕土の培養をはかる手段として堆肥舎を設置して厩肥の増産をはかる事等、事業を遂行する為に必要な記帳の励行とグループ活動の促進強化を申合せその実施に関し、月別実施項目は指導員の指導実施表で見られた通りでございます。

愈々実施に当っては指導員を招へいして定例研究会の開催とか、スライド上映会、特に5月には酪農経営の先進地である広島県砂谷へ4名の同志と共に訪問しその経営状態を見学し、更に計画遂行の為に婦人を啓蒙し事業に対する認識と理解を深める事が大切なので8月に婦人部を結成し、牛の鳴き声をまねてモウーモウー会と名付けて以後毎月牛乳代より1,000円宛の天引貯金を実施して居り、婦人の労働軽減の為、

岡山畜産便り1959.04・05

電気洗濯機を34年度中には全戸購入すると意気込んでおり、この為に婦人の酪農に対する意欲は著しく向上して日々楽しく生産に努めて居ります。

診断事業の効果

その結果第3表に示す通り全戸牛舎は繋舎と成り顕著な改造を見ましたが、水田酪農である為敷料に乏しく前肢に軟腫を生じた例があったので之を予防する為、配合飼料の空袋を利用して藁プトンを各戸1頭当り2個以上を作り交互に敷替完全に予防する事が出来ました。

厩肥舎は事業開始当時は2戸が厩設で後6戸が新設し、2戸が堆肥盤のみ設置し一応全戸完了致しました。牛乳処理場については皆無でしたが現在では全戸設備を完了して居ります。

次に給水設備の点では全戸水道設備をなし、内8戸が自動給水設備いわゆるウオターカップを取り付けています。その内地域的集団した5戸は水道設備を共同でなし、その為に給水設備を含めて個人設置の場合は32,000円要する経費が僅か15,500円の負担ですみ、尚補修維持についても負担が軽くこの面に於ても共同の力を強く認識致しました。

以上の施設改善と飼料給与の合理化により病気の発生状況は昭和32年度に於いては乳房炎7件、胃腸障害16件、繁殖機能障害3件、その他4件、計30件であったものが、33年度には胃腸障害及び乳房炎は特に減少し、その他と併せて罹病率は20%にあたる僅か6件となり、更に2等乳の発生は前年夏期出荷乳量の13%であったものが本年は皆無となりました。

尚自給飼料の点では搾乳牛1頭当り年間粗飼料22,000kgの生産を実現して初期の計画を達成致して居り、第4表に示す通りで御座居ます。

特にサイロ20基を有し石灰藁の処理水槽も共同で6ヶ所に新設し、干草1頭当り600Kの生産と併せて冬期間の飼料給与についても順調な歩みを続けて居ります。

尚飼料作物に対する肥培管理の点では現在牛尿撒布機1台をグループを試作しました。尿撒布機については参考図の通りであります、以前はストップバルブが後部取付の為、尿の撒布が不均衡となるためこの改善をあれこれと考えた結果中古クラッチワイヤーをリヤカーの引手に取り付け前方でバルブの開閉の操作出来る様改善致しました。

尚、尿の汲取りについては手押ポンプを用い汲取る

様考案致しました。是れが大変好結果を得ましたので近々共同で3台作製の予定で居ります。

尚、グループ活動に付いては年3回6、9、12月に共同削蹄を行い、河原に於ける放牧管理は以前は個々に行っていましたが、当番制を実施したために労力は10分の1に減少し、施設の改善設置についても共同作業を行い経費の最少限に喰い止める等非生産的労働の節約に努めて居ります。

一年をかえり見て

以上診断事業開始以来1ヵ年の概要を申し上げましたが、酪農経営の整備期であるため育成牛が比較的多く、従って産乳量は1戸当り7,500K、牛乳販売代金161,200円で経済価値が低く目標の約50%であったが、その間には資金的にも又精神的にも筆舌に尽し得ない多くの困難に遭遇しましたが、振返って事業開始前の状態を思う時隔世の感を持つと同時に、よくここまで頑張ったものだ対象農家一同非常に感慨深いものがあり、この診断事業を受けました事を心より感謝致しますと共に、吾々が農業経営に乳牛を取り入れた事は最高度の経営である事を自覚致します。それは牛と人間との一体に成る経営で有り乳牛を家族の一員としなければならぬ事を気付きました。

人間生活の第一義が愛である以上乳牛の飼育に当っては常に愛を根本義としなければなりません。乳牛を単なる心なき動物として扱ふと吾々に色々と迷惑をかけるでしょう。即ち食欲が不振である、偏食である、又は角を振る、足を振る、搾乳が思うにまかせない等々之等をすべて牛が悪いと片付けてはならぬと思います。足を振って搾乳を思う様にやらせないその事についても、牛の気持になって考えてみる事が大切だと痛感します。

将来計画について

尚将来計画の実施については第5表に示す通りでございまして、今後に残る問題点の改善のため渾身の努力を継続し、グループ酪農経営の安定を確立する覚悟でございまして一層の御指導と御鞭撻をお願い致しまして私の報告を終ります。

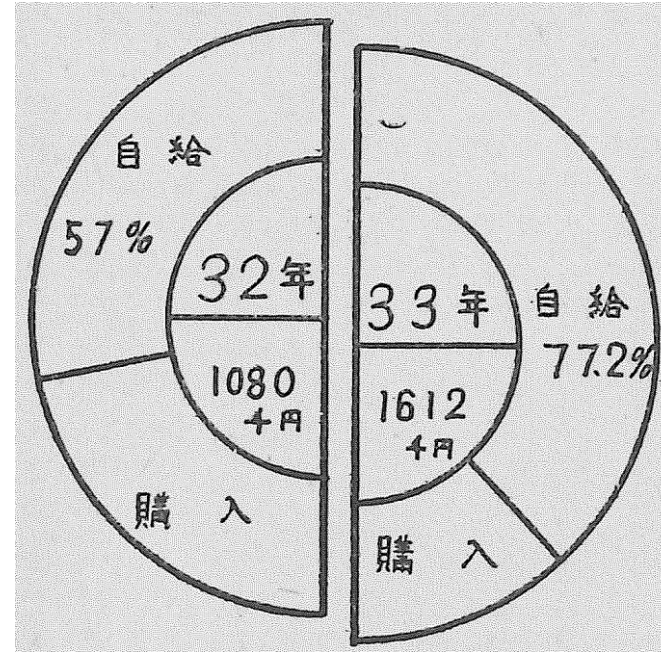
第2表

1. 乳牛導入及び優良産犢の保留に依る規模の拡大
 2. 専用飼料圃1頭当り10aの確保
 3. 施設の共用に依る石灰糞の全戸利用
 4. 乾草1,200kの調製
 5. 牛舎改良, 給水設備, 牛乳処理場, 厩肥舎の全戸設置
 6. 生活改善と労働緩和のため, 水道設備と台所改善を行う
 7. 放牧場の共同管理
 8. 記帳の励行
- 以上申合す
- 昭和33年4月30日
中地区診断対象農家一同

第3表 施設改善成績表

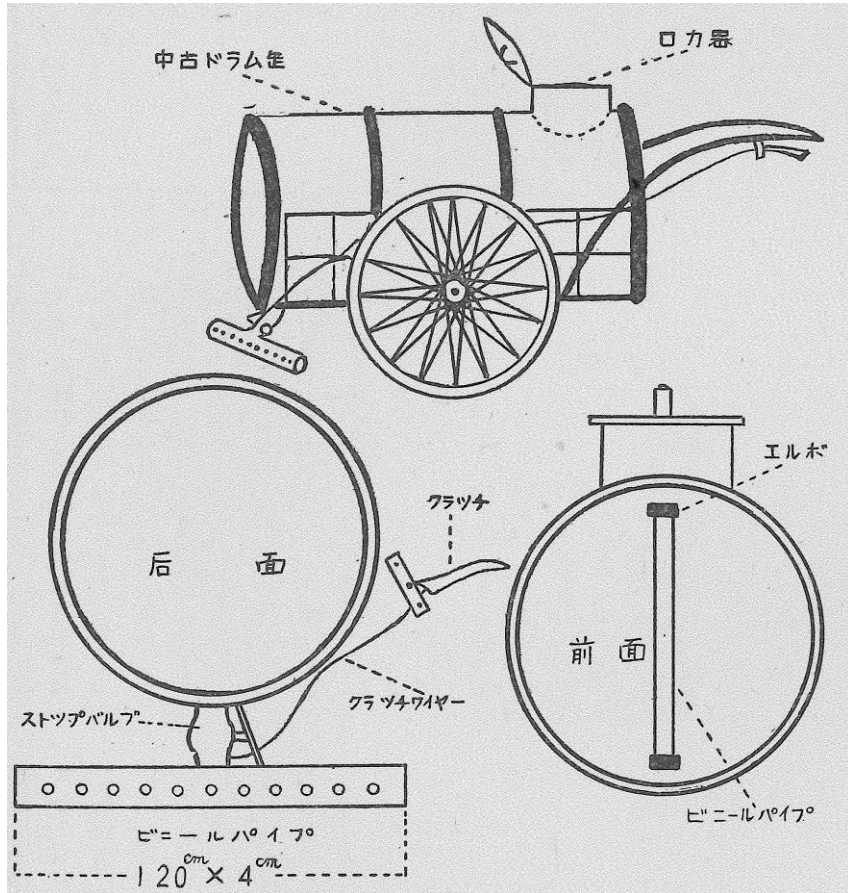
農家番号	牛舎構造		堆厩肥舎		牛乳処理場		給水設備		罹病率	
	32年	現在	32年	現在	32年	現在	32年	現在	32年	33年
1	放1	繫3	なし	盤	なし	新設	なし	自動	△△	
2	"1	"4	"	"	-	"	"	"	△ △	□
3	"1	"3	"	新設	"	"	"	"		
4	繫2	"5	"	"	"	"	"	"	△ △ △ △	△□
5	放1	"3	"	"	"	"	"	"	△ □	
6	"2	"2	"	"	"	"	"	水道のみ	○ ○ ○ ○	○
7	繫2	"3	"	"	"	"	"	自動	△ △ △ △	
8	"1	"2	有	改造	"	"	"	水道のみ	○ ○	○
9	放2	"2	なし	新設	"	"	"	自動	△ △	△
10	"2	"2	有	改造	"	"	"	"	○	

第4表 牛乳販売代金に対する購入飼料費の割合



農家番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
32年	-	35	40	45	40	50	40	45	40	40	43%
33年	22.5	17.0	26.2	11.6	25.1	22.5	28.1	18.9	27.7	28.9	22%

参考図 牛尿撒布機



牛尿撒布機

仕 様 書	中古ドラム缶	1ヶ	600円	ロカ器	1ヶ	150円
	ストップバルブ	1ヶ	400円	中古手押ポンプ	1ヶ	300円
	ビニールパイプ	60cm	35円	ビニールパイプ	2m	200円
	ビニールパイプ	120cm	96円	ビニールアミ	30cm平方	20円
	中古クラッチワイヤー	1ヶ	100円	加工費		400円
	エルボ	3ヶ	150円	計		2,451円

第5表 将来の実践事項

実践事項	項目
1. 経営規模の拡大	(1) 年間1戸平均農業粗収益80万~100万円実現 (2) 搾乳牛3~5頭繁養
2. 自給飼料体制の確立	(1) 作付形態の充実 (2) 単位面積当り収量の増加 (3) 飼料平衡のための計画栽培, 貯蔵
3. 耕土の培養	(1) 堆厩肥の増加施用 (10a 当り4,000kg)
4. 記帳の励行	(1) 経営簿の記帳
5. 施設の完備機械力の導入	(1) ミルカーの設置 (2) 耕運機の導入
6. グループ活動の強化	